

19 予約相対取引による盆需要輪ギクの安定生産に向けた取り組み

■ J A香川県豊南地区花卉部会 ■

(西讃農業改良普及センター ○今出来光志 真鍋 尚)

●対象の概要

香川県農協豊南地区花卉部会は、部会員22名、キクの栽培面積7haで、消費者ニーズに対応した共選共販体制の拡充や、省力化・高品質化に向けた栽培技術の導入などを図り、産地の持続的な維持発展に努めている。

同部会はJ A香川県に合併前から、共選共販体制による省力化・有利販売に早くから取り組み、生産者の荷造り作業分業化、品質のバラツキ対策として、共同選花施設を整備し集出荷支援体制を確立した。とりわけ、選花結束ロボットを活用した持込共選の実施で、出荷調整作業が省力化され、一戸あたりの栽培面積の拡大と産地の維持に繋がった。



共同選花場で選別、結束を待つ大束出荷のキク

平成10年度からは、加工業者や量販店などのニーズに対応するため予約相対取引の商材「PHM（プロミスハウスマム）」を設け、生産農家の経営安定化のアイテムとして現在も定着している。



キクの予約相対取引商材 PHM

●課題を取り上げた理由

切花輪ギクの需要は、全国的に葬祭用需要が漸減する反面、量販店などでの使用量が増えている。

一方で、需要に呼応すべき供給状況は、国内生産量が漸減し、代わりに東南アジア等の近隣諸国産地からの輸入が年々増加傾向にある。

このような中、輪ギクの予約相対取引では、8月の盆時期は、12月の年末と並ぶ大量取引の時期であるが、盆需要は高温期であるため、切花の納品時期、日持ち性、適度なボリュームが重要になる。また、需給状況を受けPHM商材に対する市場や顧客のニーズは、年々微妙な変化を求められ、タイムリーな産地対応が要求されている。

最近、課題としては、白花の主力品種である「フローラル優香」の8月の盆出荷で高温による奇形花の発生割合が多くなり、改善対策への取り組みが強く求められる状況にあった。

そこで、これまでの経緯を踏まえ、急がれる8月盆出荷での奇形花対策として、新品種の導入および簡易シェードの検討を行うこととした。

●普及活動の経過

1 新品種の試作

高温期でも奇形花が発生しにくいとされる新品種黄花2品種と白花1品種について実証ほを設置し、各品種について、奇形花（花卉の乱れ）、花首の曲がり、収穫期間などを調査し対照区「フローラル金優香」等と比較した。

耕種概要は、夏秋ギクの7～8月出荷型電照栽培で、4月上旬～下旬定植、消灯5月末～6月上旬とした。

2 簡易シェードの検討

1) 低軒高パイプハウスでの実証

当部会のパイプハウスは肩高180cm以下の構造が多く、本格的な短日処理（シェード）設備を導入しても、ハウス内温度が上昇し品質低

下が予測される。軒高を調べてみると本格シェードに不向きな既存ハウスが6割以上占めていることから簡易シェードによる実証ほを設置した。

2) 簡易シェード資材の概要

サイド部分はP O製の白銀資材を用い巻き上げ方式とした。天部分は、ハウス内部のパイプの肩の高さに2 m毎にワイヤーを張った上の両側に、ラッセル織のミラー資材が表(上部)に、裏(下部)が黒色抑草シートの2層を縫い合わせた通気性の良い資材(小泉製麻株式会社製)を設置した。シェードは消灯日から開始し、夕方16時~20時までの12時間日長処理とした。

3) 短日処理の概要

シェード開始は通常より約1週間早め6月10日とし、消灯後~3週間とその後2、3日おきに2回を、日中30%遮光+夕方100%シェード、消灯3週間後~収穫終了まで終日30%遮光とし、無シェード栽培および6月18日消灯の本格シェード栽培農家と花芽分化速度や奇形花率などの品質を比較した。

●普及活動の成果

1 新品種の試作結果

短日処理なしでも「フローラル優香」のシェード栽培に比べ、黄花2品種と白花1品種の奇形花率が大幅に低く、花首の曲がりも少なかった。うち黄花1品種は、次年度以降も盆出荷に限りPHMで取扱い可能となった。残りの黄花1品種は、盆とこれ以外の時期も取扱い可能との実需者の意見を得た。



短日処理なしでも奇形花が少ない品種

2 簡易シェードの調査結果

低軒高の既存ハウスでも、短日処理(シェード)によるハウス内の異常昇温が無い優れたカーテン資材を用いることで、本格シェードと遜

色ない品質の「フローラル優香」が生産可能なことが実証された。(奇形花の発生率 本格シェード9%、簡易シェード12%)



実証した既存ハウスにおける簡易シェードの設置方法

以上のことから、当面の対策として、シェード処理なしでも奇形花の発生率が少なく市場性がある安定生産が可能と思われる黄花・白花品種の選定ができた。その結果、盆出荷のPHM用栽培面積全体に占める割合として、シェード栽培面積3割、奇形花発生率の少ない品種導入面積5割弱、未対策面積2割強の比率に改善することができた。

これにより、ここ数年来、指摘され続けていた、高温年の奇形花問題解決の糸口がやっと見えてきた。

●今後の普及活動の課題

1 新品種の奇形花発生の確認

高温年でも奇形花の発生が少ないとされる黄花4品種がPHMに対応できそうだが、うち脇芽の発生が少ない2新品種は、部会内での栽培経験年数が浅いため、奇形花発生率の年次変動を確認する必要がある。

2 出荷先に合わせた品種構成への取組み

取引市場によって微妙に品種や色の割合などが異なるが、できる限り多くの取引先をカバーできる品種構成を組み、PHMに参画する生産者個々の栽培環境や栽培技術・施設等により、導入可能な品種の組合せを、どのように積上げて行くかが課題である。

3 簡易シェード栽培の改善

基本的には、盆需要品種を安定的に生産するには、シェード装備が不可欠である。そこで、簡易シェードを導入する農家を掘り起こし、推進するとともに、被覆資材の軽量化や低軒高ハウスに対応した設置方法や栽培法の検討が必要である。